UEFI BIOS セキュリティ

@ SECURITY CAMP 2021-08-13



一般的なUEFIの認知度

覚えておくこと

- •BIOSはただのソフトウェア
 - 人間が書いて出荷している
 - バグがある、脆弱性がある
 - 悪意あるコードが書ける

■違うこと

- 保存されているストレージ
- 実行される環境
- 理解している人、解析できる人がまだ少ない。
- セキュリティリスクを確認 &緩和できるソフトウェアがゼロに近い

講師について

- ■丹田賢 / Satoshi Tanda (@SatoshiTanda / @standa t)
 - バンクーバー在住9年目、<u>職業エンジニア10年以上</u>
- ■システムソフトウェアエンジニア
 - セキュリティソフトウェアの研究開発
 - @クラウドストライク(2016~)
 - @FFRI(2009~2012)
- •ソフトウェアリバースエンジニア
 - 産業システムの脆弱性解析、マルウェア解析
 - @Sophos(2015~2016)
 - @GE(2013~2014)
- ▶トレーナー
 - <u>UEFI+Intelプラットフォームでのハイパーバイザー開発コース</u>
- •スピーカー
 - CodeBlue、Recon、Bluehat、Nullcon、etc

クラウドストライクについて

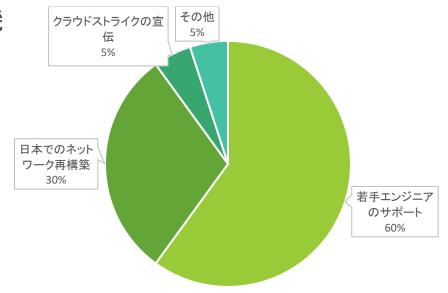
CrowdStrike® Inc. (Nasdaq:CRWD)は、サイバーセキュリティのグローバルリーダーであり、セキュリティ侵害を阻止するためにゼロから構築したエンドポイント・ワークロード保護プラットフォームにより、クラウド時代のセキュリティを再定義しています。

- クラウドを活用したセキュリティソフトウェア・サービスベンダー
- ■日本在住のエンジニアも募集中!
 - 同僚エンジニアが非常にデキる、上司が理解がある
 - 仕事の内容&規模が面白い
 - ワークライフバランスが良い
 - COVID以前から完全リモート
 - 給与もわるくない
 - アメリカ移住も支援(もし望むなら)
- ■インターン&就職に興味のある人はDM

セキュリティキャンプについて

- ■川古谷さん@kwky(プロデューサー)に声をかけていただきました!
 - 日本に居たとき勉強会、ブログあたりで知り合った
 - 古いゆるいつながり。最後にあったのも8年前(?)
 - プみなさんもアウトプットをしてください!
 - ごみなさんも知り合いをつくってください!

■私の動機



どの業界で使える知識?

- ■セキュリティベンダー
 - アンチウイルス(AV)やEDR
 - ファームウェアに対する脅威を管理、軽減できる?
 - インシデントレスポンス
 - ファームウェアに対する攻撃が含まれる可能性を考慮、対応できる?
- * 非セキュリティベンダー
 - BIOSベンダー
 - American Megatrends International
 - OEM
 - Dell, Microsoft, Lenovo
 - X86ベースのゲームコンソール
 - Sony PlayStation
 - Microsoft XBox

UEFI BIOS概要

ファームウェアとは

- ■ソフトウェアの一種でデバイスの制御を行う
 - 組み込み機器では通常ROMに保存
- ■バグ、脆弱性、マルウェアがあり得る
 - ホストファームウェア: BIOS(本講義)
 - デバイスファームウェア
 - Thunderbolt Controller https://thunderspy.io/
 - HDD Controller https://www.wired.com/2015/02/nsa-firmware-hacking/
 - USB Controller https://shop.hak5.org/products/usb-rubber-ducky-deluxe
 - Baseboard management controller (BMC) https://eclypsium.com/2019/01/26/the-missing-security-primer-for-bare-metal-cloud-services/

BIOSとは

- ■広義:ハードウェアの初期化とOSの起動を担当するソフトウェア
 - システム起動時にCPUによって最初に実行される
 - OSを読み込むためのデバイスドライバーを実装する
 - HTTP, PXE, HDD, USB, DVE etc etc
 - OSローダーを実行、処理を引き渡す
- ■狭義:レガシーBIOS(UEFI等と比較して)
- ■他の"BIOS":
 - iBoot iPhone, macOS on Apple Silicon, macOS on T2
 - Coreboot Chrome OS
 - Linux Boot Facebook datacenters
 - Proprietary Android phones

https://support.apple.com/en-ca/guide/security/sec114e4db04/web https://www.chromium.org/chromium-os/developer-information-for-chrome-os-devices/custom-firmware https://www.linuxboot.org/

UEFIとは

- ■BIOSの実装を標準化し、レガシーBIOSを置き換えるために策定された 仕様群
- ■レガシーBIOSは
 - 他のCPUアーキテクチャーのサポートが困難
 - 開発が困難(16bit, real-mode, etc)
- ■2005年: EFI(仕様v1.1)が策定
 - macOS on Intelは、厳密にはEFIベースのBIOSを使用
- ■2006年: UEFI(仕様v2.0)が策定
 - 現在実質100%のOEM PCがUEFIベースのBIOSを使用
- ■2021年: UEFI v2.9が最新
 - https://uefi.org/specifications



Demo: VMwareのUEFIバージョンの確認

UEFIシェルの「VER」コマンドを用いて実装された仕様のバージョンを確認する.

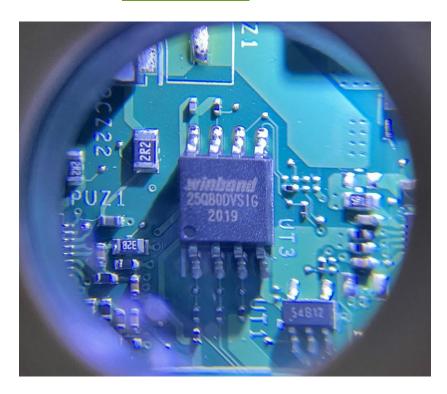
UEFIのストレージ

- ■SPIフラッシュに保存されている ■ ディスクとは別のストレージ
- Some and the state of the state



UEFIのストレージ

- ■Winbond製が一般的。通常8-32MB
- ■写真の例は<u>W25Q80DV</u>



アクセス方法

- ■ソフトウェアから(後述)
 - UEFI変数はソフトウェアから読み書き可能
- ■ハードウェアから
 - SPIフラッシュプログラマー





ストレージの内容(Intel)

- ■複数のファームウェアが入っている
 - 例: Gigabit Ethernet, Intel Management Engine, and BIOS
 - **W**UEFITool NE alpha 58 (Nov 7 2020) MBP141.rom

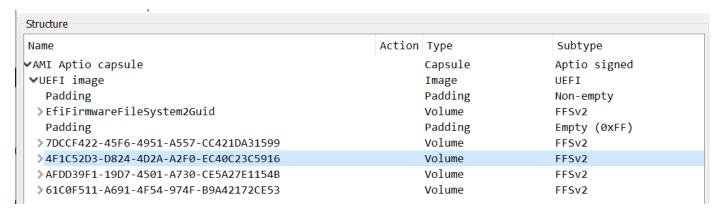
File Action View Help

Structure			
Name	Action	Туре	Subtype
√ Intel image		Image	Intel
Descriptor region		Region	Descriptor
>PDR region		Region	PDR
>ME region		Region	ME
>BIOS region		Region	BIOS

W UEFITool NE alpha 58 (Nov 7 2020) - XPS_9360_2.10.0.bin File Action View Help Structure Action Type Subtype Name **✓**Intel image **Image** Intel Descriptor region Descriptor Region GbE region Region GbE Region ME region ME BIOS region Region **BIOS**

BIOSイメージの内容

- Image -> Volumes
 - VolumesはFirmware File System (FFS)を持つ



https://edk2-docs.gitbook.io/edk-ii-build-specification/2_design_discussion/22_uefipi_firmware_images

ファイルの種類

- ■Fileは実行可能ファイルを含む
 - 実行可能ファイルのフォーマットはTEかPE

Structure			
Name	Action	Туре	Subtype
✔AMI Aptio capsule		Capsule	Aptio signed
∨ UEFI image		Image	UEFI
Padding		Padding	Non-empty
>EfiFirmwareFileSystem2Guid		Volume	FFSv2
Padding		Padding	Empty (0xFF)
>7DCCF422-45F6-4951-A557-CC421DA31599		Volume	FFSv2
▼4F1C52D3-D824-4D2A-A2F0-EC40C23C5916		Volume	FFSv2
>414D94AD-998D-47D2-BFCD-4E882241DE32		File	Freeform
>7B9A0A12-42F8-4D4C-82B6-32F0CA1953F4		File	Freeform
▼9E21FD93-9C72-4C15-8C4B-E77F1DB2D792		File	Volume image
✓LzmaCustomDecompressGuid		Section	GUID defined
Raw section		Section	Raw
∨Volume image section		Section	Volume image
▼5C60F367-A505-419A-859E-2A4FF6CA6FE5		Volume	FFSv2
>AprioriDxe		File	Freeform
RomLayoutDxe		File	DXE driver
> DxeCore		File	DXE core
> Bds		File	DXE driver

実行可能ファイルの種類

■実行可能ファイル(TE/PE)はいくつかの種類に分けられる

■例

タイプ	概要	例
Application	StartImage()で実行され、実行が終了するとアンロードされる	Shell.efiSmmResetSmmAccessSub
DXE Boot Driver	自動的、またはLoadコマンドで実行され、 Runtimeフェーズまでメモリに居る	ほぼ全部のDXE DriverSmmInterfaceBaseNtfs
DXE Runtime Driver	自動的、またはLoadコマンドで実行され、 OSが起動したあともメモリに居る	CRZEFI.efiSecDxe
DXE SMM Driver	自動的に実行され、SMMとしてSMRAMに ロードされ、OSが起動した後もメモリにいる	 NvmeSmm

 $https://edk2-docs.gitbook.io/edk-ii-inf-specification/appendix_f_module_types$



Demo: 実行ファイルタイプの確認

CFF Explorerを用いて演習で使用した実行可能ファイルの種類をPEへッダーから確認する

UEFIの実装例

- <u>EDK2</u> Reference Implementation & SDK
 - Open Virtual Machine Firmware (OVMF) オープンソースUEFI BIOS。QEMUに使用される
- ■各OEMのBIOS
 - BIOSベンダー(eg, AMI, Insyde)開発のコード+OEM独自モジュール



Item	Value
OS Name	Microsoft Windows 10 Enterprise
Version	10.0.18363 Build 18363
Other OS Description	Not Available
OS Manufacturer	Microsoft Corporation
System Name	DESKTOP-HLKR4S8
System Manufacturer	ASUSTEK COMPUTER INC.
System Model	UX360CA
System Type	x64-based PC
System SKU	ASUS-NotebookSKU
Processor	Intel(R) Core(TM) m3-6Y30 CPU @ 0.90GHz, 1512 Mhz, 2 C
BIOS Version/Date	American Megatrends Inc. UX360CA.303, 4/17/2019

- BIOSベンダーを使わない場合もある、例: Microsoft、Dell、Apple
 - この場合もEDK2をベースが多い

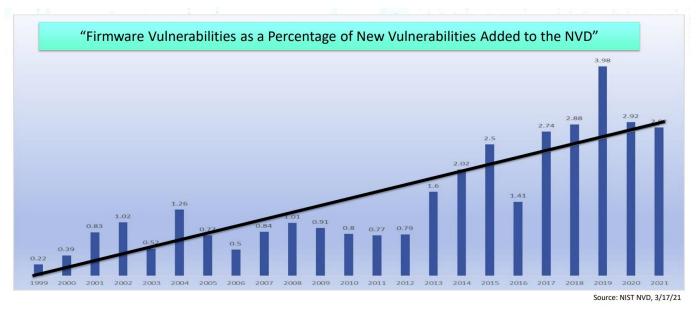
https://support.apple.com/en-ca/guide/security/seced055bcf6/web

UEFIの実装例 - VMware Workstation

- ■多少EDK2に基づいた実装
 - C:\Program Files (x86)\VMware\VMware Workstation\x64\EFI64.ROM
 - /usr/lib/vmware/roms/EFI64.ROM
 - 最小限の実装
 - 2MB
 - No SMM
- ■VMXファイルで使用するUEFIファイルを指定できる
 - efi64.filename = "MY.ROM"
 - UEFIToolでUEFIファイルの内容を変更できる
 - CFUEFIマルウェアやUEFIアンチウイルスとかを書いて遊べる

ファームウェアセキュリティ

■攻撃や問題が近年頻発



- 80%の組織が過去2年間にファームウェアに対する攻撃を確認
 - By Microsoft

https://www.microsoft.com/security/blog/2021/03/30/new-security-signals-study-shows-firmware-attacks-on-the-rise-heres-how-microsoft-is-working-to-help-eliminate-this-entire-class-of-threats/

 $https://static.rainfocus.com/rsac/us21/sess/1602603692582001zuMc/finalwebsite/2021_US21_TECH-W13_01_DHS-CISA-Strategy-to-Fix-Vulnerabilities-Below-the-OS-Among-Worst-Offenders_1620749389851001CH5E.pdf$

UEFI BIOSセキュリティ

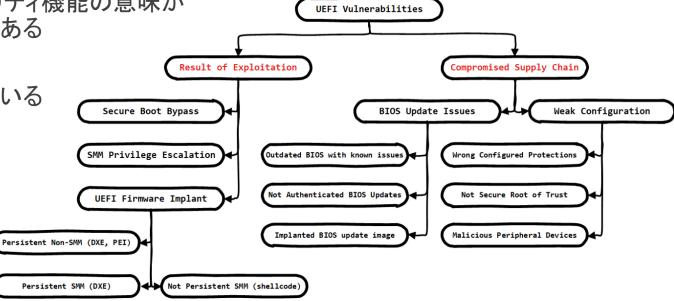
- ■広範で複雑(UEFI BIOSに限定しても)
 - 複数の技術が関連する
 - 理解しているエンジニアが少ない

影響大

ほかのセキュリティ機能の意味がなくなる場合がある

■ 修正が困難

広く使用されている



https://medium.com/firmware-threat-hunting/uefi-vulnerabilities-classification-4897596e60af

UEFIのサプライチェーン

- -長い&遅い
- ■例
 - OEM: 脆弱性確認 -> アップデート開発 -> テスト -> リリース(3か月)
 - IT管理者: 脆弱性情報の確認 -> アップデートの計画 -> アップデート適用
- ■脆弱性がBIOSベンダーやEDK2など、複数OEMで共有されたコードの場合、さらに遅くなる

UEFI Hackz

UEFIの"悪用"

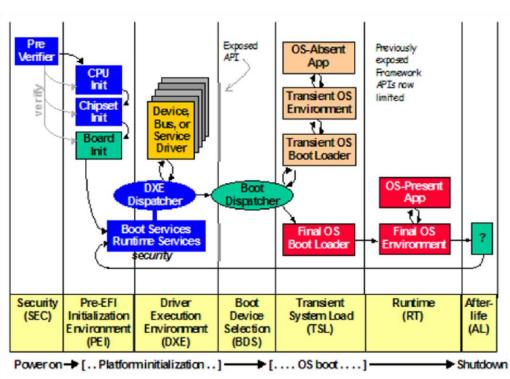
- ■UEFIモジュールを使用したゲームセキュリティの侵害
 - <u>CRZAIMBOT</u>, ほかの例は<u>UnKnoWnCheaTs</u>で
- ■UEFIモジュールとして実装されたハッキングツールも多数
 - リバースエンジニアリングの支援ツール
 - EfiGuard, DmaBackdoorHv, negativespoofer, umap, efi-memory
- ■なぜ?

UEFIが悪用される理由

- カーネルモードで実行される
- ■OSレベルのセキュリティポリシーをバイパスできる
 - Code Signing on Windows
- ■検知されにくい
 - アンチチートやアンチウイルスによるOSフェーズでのモニタリングが始まる前に実行可能
 - カーネルモジュールの場合のような、OSから見える管理用データ構造が存在しない(OSは基本的にUEFIモジュールの存在について知らない)
- ■開発が比較的容易

ブートシーケンス(意味)

- ■PEI ハードウェア初期化
- ■DXE RTまでの実行環境の構築
- ■BDS ブートメニューのリストと 選択
- ■TSL ブートメニューから選択された任意のUEFIアプリの実行。 主にブートローダーが実行される
- ■RT UEFI実行環境が破棄され OSに環境管理が移行した後



https://edk2-docs.gitbook.io/edk-ii-build-specification/2_design_discussion/23_boot_sequence

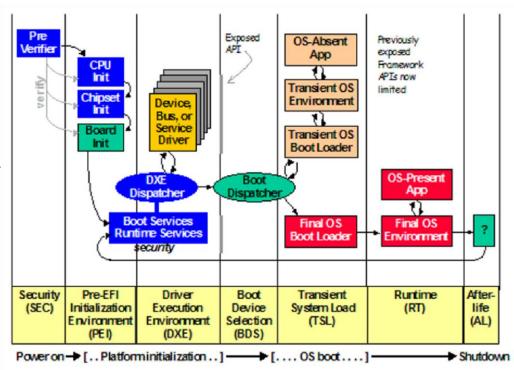
ブートシーケンス(セキュリティ)

■~BDS

- SPIフラッシュ内のモジュールの み実行される
- 例: DXE drivers, SMM modules
- Trusted

■TSL~

- 他のストレージ内のモジュール も実行される
- 例: bootmgfw.efi, shell.efi, myhackz.efi
- ② Untrusted



https://edk2-docs.gitbook.io/edk-ii-build-specification/2_design_discussion/23_boot_sequence

Driver Execution Environment (DXE)

- ■シングルスレッド
- ■すべてのモジュールを含む単一のアドレススペース
 - SMMを除く。SMMは独自のアドレススペースを持つ
- ■すべてのコードがカーネルモードで動作
 - SMMを除く。SMMは実質さらに高い特権レベルで動作
 - macOS on Intelはユーザーモードを使用

Driver Execution Environment (DXE)

- ■Long-mode(64bitアドレッシング)がすでに有効
 - Not 16bit real-mode
- Identity mapped paging
 - 仮想アドレスが同じ物理アドレスにマップされている
 - 例: VA 0x123000 は PA 0x123000 に変換される
 - ページングなし。例外は基本的に即フリーズ
 - 基本すべてのページがRWE <

セキュリティ機能の使用状況

セキュリティ機能	状況
Control flow guard	Intel CET-SSは対応, Intel CET-IBTとコンパイラーベースのCFI(/guard:cf, -fsanitize=cfi)は未対応
NULLポインターアクセスの禁止	EDK2は対応しているが、しばしば未使用
DEP / NX	EDK2は対応しているが、しばしば未使用
スタックカナリー	未対応
ASLR	未対応



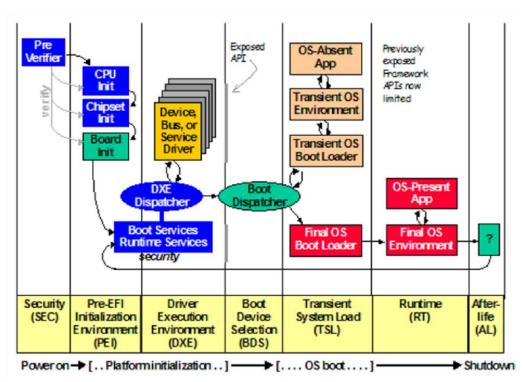
https://github.com/jyao1/SecurityEx/blob/master/Summary.md

UEFIモジュールとOS

- ■UEFIモジュールは基本:
 - OSの読み込みのために存在
 - OSが起動(RTに移行)する段階でアンロードされる
- ■ハック&マルウェアはOS段階で何かをしたい
 - 方法1: DXE Runtime Driverとして実装する(課題1)
 - 方法2:OSローダーと&OSカーネルにパッチを当てて生き残る
 - <u>rainbow</u>, <u>Voyager</u>など
 - 方法3:OSに呼び出してもらう(課題2,4)

Boot-time vs Run-time

- ■DXE~TLSがBoot-time
 - Boot DriverとRuntime Driverの 両方が実行可能
 - すべてのUEFI APIが使用可能
 - すべてのアドレスが使用可能
- ■RT以降はRun-time
 - Runtime Driverだけ生き残る
 - Boot driverはアンロードされている
 - ごく一部のUEFI APIしか使用できない
 - ごく一部のアドレス (Runtime code and pool)のみ使用可能
 - あとはOSが管理



DXE Runtime Driver

■Runtime Driverとしてコンパイル、実行することでOS起動後も動作

タイプ	概要	例
Application	StartImage()で実行され、実行が終了するとアンロードされる	Shell.efiSmmResetSmmAccessSub
DXE Boot Driver	自動的、またはLoadコマンドで実行され、 Runtimeフェーズまでメモリに居る	ほぼ全部のDXE DriverSmmInterfaceBaseNtfs
DXE Runtime Driver	自動的、またはLoadコマンドで実行され、 OSが起動したあともメモリに居る	CRZEFI.efiSecDxe
DXE SMM Driver	目動的に実行され、SMMとしてSMRAMに ロードされ、OSが起動した後もメモリにいる	NvmeSmm

UEFIモジュールとOS #2

- ■ハッキングUEFIモジュールはOS実行環境で呼び出されたい
 - Ie, ただメモリーに居るだけでは意味がない
 - スレッドやタイマーのようなものを登録しておくこともできない
- ■Runtime Servicesをフックする
 - CRZEFIを含む多くのハッキングUEFIモジュールが実装する手段

Boot & Runtime Services

- ■UEFIプラットフォームは、2つの主要なAPIセットをモジュールに提供
- Boot Services (BS)
 - DXE~TSLまで使用可能。メモリー確保などessentialなサービスを提供
- Runtime Services (RT)
 - DXE~恒久的に使用可能。UEFI変数へのアクセス、BIOSアップデートのスケジュール、シャットダウンなど14APIのみ

```
///
/// Cache pointer to the EFI Boot Services Table
///
extern EFI_BOOT_SERVICES *gBS;
```

```
///
/// Cached copy of the EFI Runtime Services Table
///
extern EFI_RUNTIME_SERVICES *gRT;
```

Runtime Services

■Runtime ServicesはOSから呼び出される

```
1: kd> k
# Child-SP
                     RetAddr
                                           Call Site
00 ffff9007`ee5fa0a8 fffff801`570db27f
                                           0xfffff801`5a45c000
01 ffff9007`ee5fa0b0 fffff801`570c40ce
                                           nt!HalEfiGetEnvironmentVariable+0x53
02 ffff9007`ee5fa0f0 fffff801`574b3203
                                           nt!HalGetEnvironmentVariableEx+0xf074e
03 ffff9007`ee5fa1e0 fffff801`574b26e0
                                           nt!IopGetEnvironmentVariableHal+0x23
04 ffff9007`ee5fa220 fffff801`57569071
                                           nt!IoGetEnvironmentVariableEx+0x94
05 ffff9007`ee5fa340 fffff801`57444b98
                                           nt!ExpGetFirmwareEnvironmentVariable+0x8d
06 ffff9007`ee5fa390 fffff801`570247b5
                                           nt!NtQuerySystemEnvironmentValueEx+0x13d7a8
07 ffff9007`ee5fa450 00007fff`56d4f804
                                           nt!KiSystemServiceCopyEnd+0x25
08 00000019`5967d648 00007fff`5670548f
                                           ntdll!NtQuerySystemEnvironmentValueEx+0x14
                                           KERNEL32!GetFirmwareEnvironmentVariableExW+0x9f
09 00000019`5967d650 00007fff`43912156
```

- Runtime ServicesはBoot-timeでもアクセス可能 &&
- すべてのメモリーは書き込み可能 &&
- UEFIには実行時のIntegrity Checkが存在しない
- L→Runtime Servicesをフックして自分のモジュールが実行されるようにする

Lab: CRZEFI

- ■CRZEFIの実装を確認する
 - RTフックを実装している関数を見つける
 - どのRTがフックされているか見つける
 - MakefileからRuntime Driverとしてコンパイルされるためのフラグを見つける
- すでに終わっているひとは
 - https://github.com/tandasat/UefiVarMonitor をチェック。Rust実装もあるよ!



CRZEFIの概要

■処理

- Efi_main()
 - SetServicePointer()
 - RT->SetVariableがHookedSetVariableに置き換えられる
- 誰かがSetVariable()を呼び出すと
 - HookedSetVariable()
 - mySetVariable()
 - RunCommand()
 - メモリー操作のバックドアコマンド

■ビルド環境

- GNU-EFI UEFIモジュール開発のための軽量なSDKを使用
 - EDK2がより標準的なビルド環境
- どちらを使ってもコードの見た目はだいたい同じ

UEFIモジュールの利点

- カーネルモードで実行される
- ■OSレベルのセキュリティポリシーをバイパスできる
 - ②もしWindowsドライバーだったら署名するか、ほかの脆弱性をつく必要がある
- ■検知されにくい
 - アンチチートやアンチウイルスによるOSフェーズでのモニタリングが始まる 前に実行可能
 - ♪もしWindowsドライバーだったら、OS APIを使ってロードする必要があり、セキュティソフトウェアが監視している可能性が高い
 - カーネルモジュールの場合のような、OSから見える管理用データ構造が存在しない(OSは基本的にUEFIモジュールの存在について知らない)
 - ごすもしWindowsドライバーだったら、DRIVER_OBJECTが作られたり、OS管理内のメモリーにコードがロードされるのでスキャンしやすい
- ■開発が比較的容易

潜在的な対策

- ■Secure bootが有効でないとゲームを起動しないようにする?
 - 署名されていないUEFIモジュールがロードできなくなる
 - Secure bootの脅威モデルはデバイス所有者を脅威に含めていない
 - 物理アクセス可能の場合、PK/KEK/DBを変更し、自己署名を許可できる
 - Secure bootのステータス報告を詐称できる
 - Secure boot無効で起動。GetVariable()をフック。以降、有効であると詐称する
- ■TPMを使用し、異常なブートシーケンスの場合ゲームを起動しないようにする?
 - TPMは3rd partyモジュールの実行をPCR[2]に記録する
 - たとえばゲームインストール時の値と違ったらBanなど
 - TPMを有効にしていないシステムも多い
- ■メモリスキャニング&パターンマッチ?

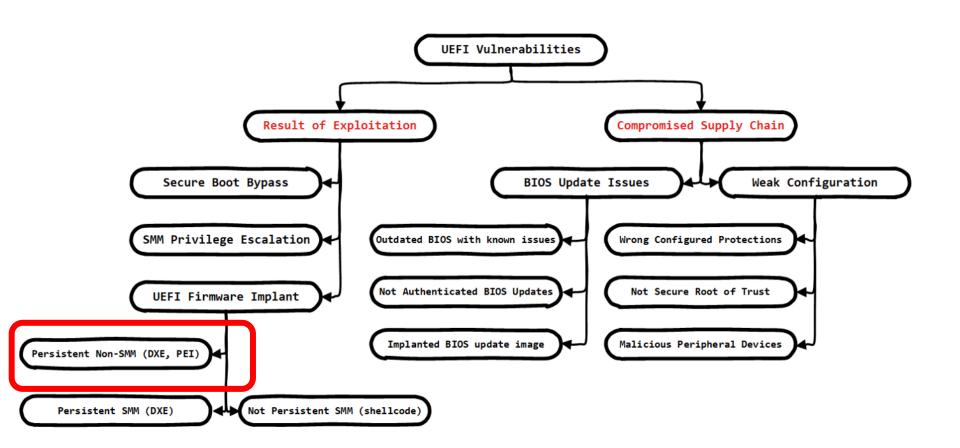
マルウェアによる UEFIモジュール利用の可能性

- ■インストールが障壁
 - ハッキングツールの場合、デバイス所有者が協力的
 - セキュアブートの無効化、USB経由での起動などなんでもアリ
 - マルウェアの場合、デバイス所有者が非協力的
- ■攻撃者がリモートの場合
 - 脆弱性をついてSPIフラッシュにインストール(課題4)
 - AVからの検知はやや困難
 - Secure bootが無効なら、OSローダーやブートエントリーの書き換え(EFILock)
 - AVはこの書き換えの処理を簡単に検知できる
- ■攻撃者が物理アクセス可能な場合
 - SPIフラッシュプログラマーでSPIフラッシュにインストール

https://twitter.com/ESETresearch/status/1275770256389222400

UEFIマルウェアと リバースエンジニア リング

分類



ソフトウェア リバースエンジニアリング(RE)101

- ■ソフトウェアの動作を解析し、その動作原理や仕様を調査する行為
- ■目的例: 利用の安全性の調査、マルウェアの動作の理解
- •方法例:動的解析、静的解析
 - 動的解析 ソフトウェアを動作させて挙動を監視、記録、分析する
 - Process Monitor, API Monitor, Debuggers
 - 静的解析 逆アセンブルし実装を分析する
 - Ghidra, IDA Pro, Binary Ninja

Why: UEFIモジュールRE

- •UEFIモジュールもただのソフトウェア
 - セキュリティ上の問題がある場合がある
 - UEFIモジュールとして実装されたマルウェアや、Potentially Unwanted Application (PUA) が存在する
 - □ 通常のソフトウェアと同じくREが必要となる

■例

- 課題2, 4 UEFIモジュールとして実装されたマルウェア
- 課題3 脆弱性を含むUEFIモジュール
- Absolute Software (aka, Computrace, Lojack) はUEFIモジュールとして実装された盗難対策ソフトウェアだが、性質上Rootkitと評されることがある

https://www.blackhat.com/presentations/bh-usa-09/ORTEGA/BHUSA09-Ortega-DeactivateRootkit-PAPER.pdf

What: UEFIモジュールRE

•対象の入手

- SPIフラッシュからソフトウェア経由で
 - 例: CHIPSEC
- SPIフラッシュからSPIフラッシュプログラマー経由で
- BIOSアップデートファイルから
 - 直接UEFIToolで開けることがある(課題3)
 - BIOSUtilitiesで展開できる場合も多い
- VirtusTotalから
 - ハッシュ値がわかっている場合のみ(課題2.4)
- ■脆弱性を探す場合、SMMモジュールを狙う

Structure		
Name	Action Type	Subtype
> PiSmmCore	File	SMM core
> FlashDriverSmm	File	SMM module
NvramSmm	File	SMM module
> NvramSmi	File	SMM module
>CpuIo2Smm	File	SMM module

https://github.com/chipsec/chipsec

https://github.com/platomav/BIOSUtilities

https://standa-note.blogspot.com/2021/04/reverse-engineering-absolute-uefi.html

UEFIファイルからモジュール抽出

- ■UEFIToolを使ってPE32 imageセクションを探し、抽出する
 - UEFIモジュールはGUIDで識別される

Version section

- Human-friendlyな名前 (DxeCoreなど) はオプショナル
- **1** UEFITool NE alpha 58 (Nov 7 2020) UX360CA-AS.303 File Action View Help Structure Name Action Type Subtype ▼AMI Aptio capsule Capsule Aptio signed **∨**UEFI image Image UEFI Padding Padding Non-empty >EfiFirmwareFileSystem2Guid Volume FFSv2 Padding Empty (0xFF) >7DCCF422-45F6-4951-A557-CC421DA31599 Volume FFSv2 Volume ▼4F1C52D3-D824-4D2A-A2F0-EC40C23C5916 FFSv2 >414D94AD-998D-47D2-BFCD-4E882241DE32 File Freeform File >7B9A0A12-42F8-4D4C-82B6-32F0CA1953F4 Freeform ▼9E21FD93-9C72-4C15-8C4B-E77F1DB2D792 File Volume image ✓LzmaCustomDecompressGuid Section GUID defined Section Raw section Section **∨**Volume image section Volume image ¥5C60F367-A505-419A-859E-2A4FF6CA6FE5 Volume FFSv2 > AprioriDxe File Freeform ▼RomLavoutDxe File DXE driver Hex view... DXE dependency section Section DXE dependency PE32 image section Section PE32 image UI section Section UI Extract as is... Version section Section Version File DXE core **∨**DxeCore ➤LzmaCustomDecompressGuid Section GUID defined PE32 image section Section PE32 image UI section Section UI

Section

Hex view...

Body hex view...

Extract as is...

Ctrl+Shift+D

Ctrl+Shift+D

Ctrl+E

Extract body...

Ctrl+Shift+E

Ctrl+Alt+E

https://github.com/LongSoft/UEFITool

Version

How: UEFIモジュールRE

- ■静的解析のみ
 - 実用レベルの動的解析システム&ツールはない
 - VM内動作させ、VM付属のデバッガーを使える場合はある
 - 難読化ツールもまだ存在しない
- ■既存の逆アセンブルツールをプラグインとともに使用
 - Ghidra + efiSeek, IDA Pro + efiXplorer, Binary Ninja + bn-uefi-helper

```
Decompile: ModuleEntryPoint - (c7c3e039700bc6072f84ff99ecb22557e460dcd22145395

// DISPLAY WARNING: Type casts are NOT being printed

EFI_STATUS
ModuleEntryPoint(EFI_HANDLE ImageHandle,EFI_SYSTEM_TABLE *SystemTable)

FUN_800002b0(ImageHandle,SystemTable);

DAT_80000668 = 0;

(*gBS_12->Creat*EventEx*)

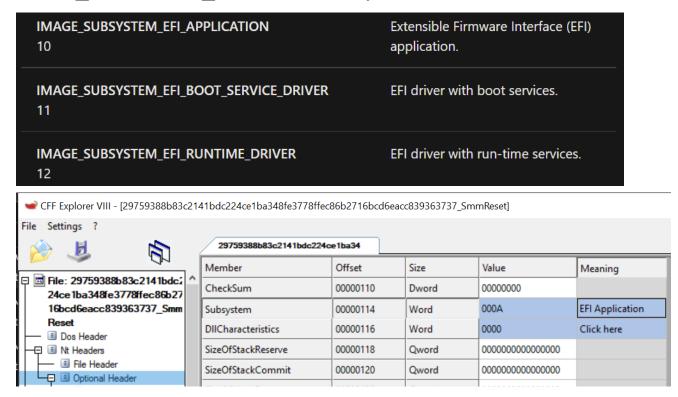
(0x200,0x10,FUN_80000330,NULL,&EFI_EVENT_READY_TO_BOOT_GUID local_18);

return 0;

return 0;
```

UEFIモジュール表層解析

- ■DXE以降実行されるモジュールはすべてPE
- ■IMAGE_OPTIONAL_HEADER.SubSystemが特定の値



https://docs.microsoft.com/en-us/windows/win32/api/winnt/ns-winnt-image_optional_header32

UEFIモジュール表層解析

- ■セクション情報やAddressOfEntryPointはValid
- ■インポートやエクスポートは存在しない
 - APIの解決はすべて動的に行う(後述)

- ■エントリーポイントはいずれか
 - プログラマーが書いたコード
 - ライブラリー生成のコード
- ■ライブラリーコードの例
 - 左:GNU-EFI (unoptimized)
 - 右: EDK2 (unoptimized)

```
Decompile: ModuleEntryPoint - (7ea33696c91761e95697549e0b0f84db2cf4033216cd16
  // DISPLAY WARNING: Type casts are NOT being printed
4 | EFI STATUS
  ModuleEntryPoint(EFI HANDLE ImageHandle,EFI SYSTEM TABLE *SystemTable)
      char cVar1;
      EFI STATUS EVar2;
      EFI STATUS extraout RAX;
      void *local 10 [2];
      if ((DAT 80050460 == 0) || (DAT 80050460 <= (SystemTable->Hdr).Revision)) {
          FUN 8000040c(ImageHandle,SystemTable);
          if (DAT 8005045f != '\0') {
               EVar2 = (*gBS 174->HandleProtocol)
                                  (ImageHandle, & EFI LOADED IMAGE PROTOCOL GUID,
                                   local 10);
               cVar1 = FUN_800019dc();
               if ((cVar1 != '\0') && (EVar2 < 0)) {
                   cVar1 = FUN_800019dc();
                   if ((cVar1 != '\0') && (cVar1 = FUN 800019e0(), cVar1 != '\0'))
                       FUN_800019b4();
                   FUN_800019cc();
               *(local_10[0] + 0x58) = &LAB_800002a0;
          FUN 800005bc (ImageHandle, SystemTable);
          EVar2 = extraout RAX;
          if (extraout RAX < 0) {</pre>
               FUN 800005b0();
              ·2 = 0x800000000000000019:
```

- ■エントリーポイントはEFI_SYSTEM_TABLE*を受け取る
 - EFI_BOOT_SERVICES* とEFI_RUNTIME_SERVICES* を含む
- ■以下のグローバル変数が初期化される

名前	内容
gST	EFI_SYSTEM_TABLE*のコピー
gBS	Boot Services
gRT	Runtime Services

- ■BSは基本サービスを提供
 - メモリー管理: AllocatePages(), FreePages() etc
 - コールバック登録: CreateEvent(), SignalEvent(), etc
 - イメージ実行 : LoadImage(), StartImage(), etc
 - プロトコル解決: OpenProtocol(), LocateProtocol(), etc

- ■その他のAPIやデータは上記プロトコルAPIを使用して動的に解決
- ■GUIDが入力、対応する構造体(関数ポインターを含む)が出力
 - 例:現在のモジュールに関する詳細情報の取得(CRZEFI)

- ■その他のAPIやデータは上記プロトコルAPIを使用して動的に解決
 - 例:ファイルアクセス(SmmAccessSub) 1/2

```
efiStatus = (*gBS->HandleProtocol)
                                                       (*ppvVar2, &EFI_SIMPLE_FILE_SYSTEM_PROTOCOL_GUID,
                                                         &simpleFileSystemProtocol);
                      if ((-1 < efiStatus) &&
                           (efiStatus2 = (**(simpleFileSystemProtocol + 8))
                                                               (simpleFileSystemProtocol,&fileProcotol), -1 < efiStatus2)) {</pre>
                            gFileProcotol = fileProcotol;
struct _EFI_SIMPLE_FILE_SYSTEM_PROTOCOL {
                                                                                                                         13.4 Simple File System Protocol
  /// The version of the EFI SIMPLE FILE SYSTEM PROTOCOL. The version
                                                                                                                         The Simple File System protocol allows code running in the EFI boot services environment to obtain file
  /// specified by this specification is 0x00010000. All future revisions
                                                                                                                         based access to a device. EFI_SIMPLE_FILE_SYSTEM_PROTOCOL is used to open a device volume and
                                                                                                                         return an EFI FILE PROTOCOL that provides interfaces to access files on a device volume
  /// must be backwards compatible.
                                                                                                                         EFI_SIMPLE_FILE_SYSTEM_PROTOCOL
  UINT64
                                                                   Revision;
                                                                                                                         Provides a minimal interface for file-type access to a device
  EFI SIMPLE FILE SYSTEM PROTOCOL OPEN VOLUME OpenVolume;
                                                                                                                              #define EFI_SIMPLE_FILE_SYSTEM_PROTOCOL_GUID \
                                                                                                                               {0x0964e5b22.0x6459.0x11d2.\
                                                                                                                                {0x8e.0x39.0x00.0xa0.0xc9.0x69.0x72.0x3b}}
                                                                                                                           Revision Number
                                                                                                                              #define EFI_SIMPLE_FILE_SYSTEM_PROTOCOL_REVISION 0x00010000
typedef
                                                                                                                           Protocol Interface Structure
                                                                                                                              typedef struct _EFI_SIMPLE_FILE_SYSTEM_PROTOCOL {
EFI STATUS
                                                                                                                               UTNT64
                                                                                                                               EFI SIMPLE FILE SYSTEM PROTOCOL OPEN VOLUME OpenVolume;
(EFIAPI *EFI SIMPLE FILE SYSTEM PROTOCOL OPEN VOLUME)(
                                                                                                                              } EFI SIMPLE FILE SYSTEM PROTOCOL:
  IN EFI SIMPLE FILE SYSTEM PROTOCOL
                                                          *This,
  OUT EFI FILE PROTOCOL
                                                          **Root
```

https://github.com/tianocore/edk2/blob/0ecdcb6142037dd1cdd08660a2349960bcf0270a/MdePkg/Include/Protocol/SimpleFileSystem.h#L530a12349960bcf0270a/MdePkg/Include/Protocol/SimpleFileSystem.h#L530a12349960bcf0270a/MdePkg/Include/Protocol/SimpleFileSystem.h#L530a12349960bcf0270a/MdePkg/Include/Protocol/SimpleFileSystem.h#L530a12349960bcf0270a/MdePkg/Include/Protocol/SimpleFileSystem.h#L530a12349960bcf0270a/MdePkg/Include/Protocol/SimpleFileSystem.h#L530a12349960bcf0270a/MdePkg/Include/Protocol/SimpleFileSystem.h#L530a12349960bcf0270a/MdePkg/Include/Protocol/SimpleFileSystem.h#L530a12349960bcf0270a/MdePkg/Include/Protocol/SimpleFileSystem.h#L530a12349960bcf0270a/MdePkg/Include/Protocol/SimpleFileSystem.h#L530a12349960bcf0270a/MdePkg/Include/Protocol/SimpleFileSystem.h#L530a12349960bcf0270a/MdePkg/Include/Protocol/SimpleFileSystem.h#L530a12349960bcf0270a/MdePkg/Include/Protocol/SimpleFileSystem.h#L530a12349960bcf0270a/MdePkg/Include/Protocol/SimpleFileSystem.h#L530a12349960bcf0270a/MdePkg/Include/Protocol/SimpleFileSystem.h#L530a12349960bcf0270a/MdePkg/Include/Protocol/SimpleFileSystem.h#L530a12349960bcf0270a/MdePkg/Include/Protocol/SimpleFileSystem.h#L530a12349960bcf0270a/MdePkg/Include/Protocol/SimpleFileSystem.h#L530a12349960bcf0270a/MdePkg/Include/Protocol/SimpleFileSystem.h#L530a12349960bcf0270a/MdePkg/Include/Protocol/SimpleFileSystem.h#L530a12349960bcf0270a/MdePkg/Include/Protocol/SimpleFileSystem.h#L530a12349960bcf0270a/MdePkg/Include/Protocol/SimpleFileSystem.h#L530a12349960bcf0270a/MdePkg/Include/Protocol/SimpleFileSystem.h#L530a12349960bcf0270a/MdePkg/Include/Protocol/SimpleFileSystem.h#L530a12349960bcf0270a/MdePkg/Include/Protocol/SimpleFileSystem.h#L530a12349960bcf0270a/MdePkg/Include/Protocol/SimpleFileSystem.h#L530a12349960bcf0270a/MdePkg/Include/PhileSystem.h#L530a12349960bcf0270a/MdePkg/Include/PhileSystem.h#L530a12349960bcf0270a/MdePkg/Include/PhileSystem.h#L530a12349960bcf0270a/MdePkg/Include/PhileSystem.h#L530a123490bcf0270a/MdePkg/Include/PhileSystem.h#L530a123490bcf0270a/MdePkg/Include/PhileSys

- ■その他のAPIやデータは上記プロトコルAPIを使用して動的に解決
 - 例:ファイルアクセス(SmmAccessSub) 2/2

```
struct _EFI_FILE_PROTOCOL {
  ///
 /// The version of the EFI FILE PROTOCOL interface. The version specified
 /// by this specification is EFI FILE PROTOCOL LATEST REVISION.
 /// Future versions are required to be backward compatible to version 1.0.
                        Revision;
 UINT64
  EFI FILE OPEN
                        Open;
  EFI FILE CLOSE
                        Close;
                                    // +0x10
  EFI FILE DELETE
                        Delete:
  EFI FILE READ
                        Read;
                                    // +0x20
  EFI FILE WRITE
                        Write;
```

https://github.com/tianocore/edk2/blob/0ecdcb6142037dd1cdd08660a2349960bcf0270a/MdePkg/Include/Protocol/SimpleFileSystem.h#L530

- Eventに対応してコールバックを実行可能
- ■カスタムイベントに加え、UEFIがいくつかのイベントを登録、実行する
 - 例:ブートローダーが起動する直前にコード実行(SmmInterfaceBase)

EFI_EVENT_GROUP_READY_TO_BOOT

This event group is notified by the system right before notifying **EFI_EVENT_GROUP_AFTER_READY_TO_BOOT** event group when the Boot Manager is about to load and execute a boot option. The event group presents the last chance to modify device or system configuration prior to passing control to a boot option.

Lab: MosaicRegressor

- ■SmmAccessSubの実装のレビュー
 - FUN_80003aa8の実装を読みUEFIモジュールからファイルにアクセスするコードを確認する
 - すでにIntelUpdate.exeがあったらどうなるか確認 する



AVによるMosaicRegressorの検出

- ■IntelUpdate.exeの書き込みは検知、ブロック不可
- ■IntelUpdate.exeの実行は検知、ブロック可能
 - ・ 字事実上の無効化
- ●UEFIモジュールの検出は可能、除去とブロックは不可
 - AVソフトウェアはSPIフラッシュを読み込みパースできる
 - CrowdStrike Falcon Firmware Analysis
 - Microsoft Defender APT UEFI Scanner
 - ESET, Kaspersky, etc
- •Note: BIOSアップデートが走るとMosaicRegressorは上書きされてしまうように見える

Verified Boot -BIOS改竄に対する保護機能の一部

Secure boot

- DXE以降に実行されるモジュール(OEM Boot Block, OBB)の署名またはハッシュ値をチェック
- Allow Listされたモジュール以外実行できなくする
- ☆ MosaicRegressorは恐らく完全に無効化される

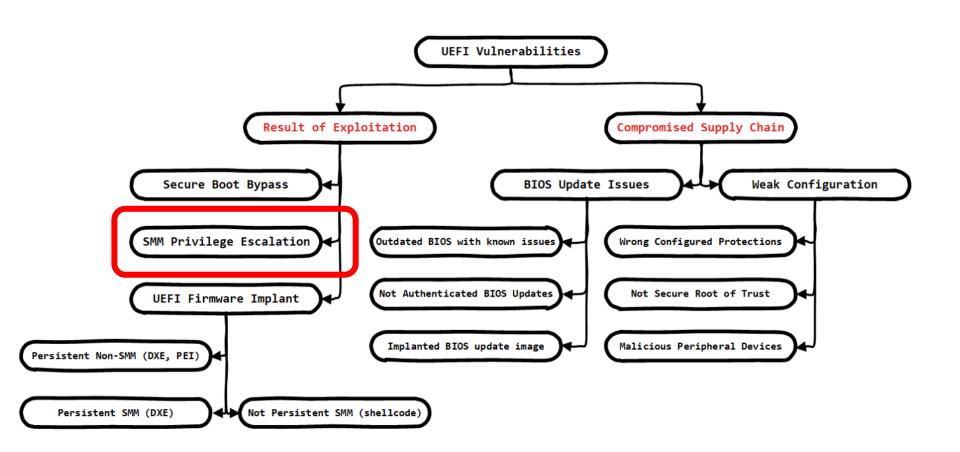
Intel Boot Guard

- Secure bootが機能するより前に実行されるコード(Initial Boot Block, IBB)の整合性をハードウェアからチェック
 - IBB = SEC & PEIモジュール
 - Secure bootの整合性を担保
- 改竄が検知された場合はブートを中止する

https://depletionmode.com/uefi-boot.html

SMMと セキュリティ

分類



System Management Mode (SMM)とは

- -クソの塊
- ■プロセッサーの実行"モード"
 - 特権レベルとは別のコンセプト
 - Ring0 SMMやRing 3 SMMがあり得る
 - 現状RingO以外の実装なし
 - SMMでのみ実行可能な操作がある
 - 例:SPIフラッシュへの書き込み保護のバイパス
 - 例:ハイパーバイザーによって管理されない(Ring-2と呼ばれることも)

30.1 SYSTEM MANAGEMENT MODE OVERVIEW

SMM is a special-purpose operating mode provided for handling system-wide functions like power management, system hardware control, or proprietary OEM-designed code. It is intended for use only by system firmware, not by applications software or general-purpose systems software. The main benefit of SMM is that it offers a distinct and easily isolated processor environment that operates transparently to the operating system or executive and software applications.

■SMRAMと呼ばれる物理メモリアドレスの範囲内で実行される

SMRAMとは

- ■メモリーコントローラーによってSMM外からのアクセスが禁止された領域
 - デバッガー、ハイパーバイザー、DMAすべてアクセス不可
 - Host Bridge and DRAM Controller (B0:D0:F0)の2レジスターによって指定される
 - TSEG Memory Base (TSEGMB)
 - Base of GTT stolen Memory (BGSM)

When the extended SMRAM space is enabled, processor accesses to the TSEG range without SMM attribute or without WB attribute are handled by the processor as invalid accesses.

2.5.3 TSEG

- ■SMMモジュールはこの領域にロードされ、実行される
 - SMRAM内のデータはTrusted
 - SMRAM外のデータはUntrusted
 - カーネルがユーザーモードのメモリを触るのと同じ状況

https://www.intel.com/content/dam/www/public/us/en/documents/datasheets/10th-gen-core-families-datasheet-vol-2-datasheet.pdf

SMMモジュール

- ■ファイルフォーマットはDXE Boot Driverと同じ
 - UEFI "File"内にSMMを示すメタデータあり

<pre>>PcieSataController</pre>	File	DXE driver	Type: 0Ah
> 2BA0D612-C3AD-4249-915D-AA0E8709485F	File	DXE driver	Attributes: 00h
▶PiSmmCore	File	SMM core	Full size: 58DAh (22746)
∨ FlashDriverSmm	File	SMM module	Header size: 18h (24)
MM dependency section	Section	MM dependency	Body size: 58C2h (22722)
PE32 image section	Section	PE32 image	Tail size: 0h (0)
UI section	Section	UI	State: F8h
Version section	Section	Version	Header checksum: E8h, valid

- ■ひとつのBIOSに200以上のSMMモジュールがある場合も
- ■DXE Coreによってファームウェアボリューム(SPIフラッシュ)から自動的に 実行される
 - USB等外部ストレージからのインストールは不可能

System Management Interrupt (SMI)

- ■ロードされたSMMモジュールはSMIハンドラーを登録する
 - 本当のSMIエントリーポイントはPiSmmCoreが実装
 - SMMモジュールのSMIハンドラーはそこから呼び出されるプラグイン形式
- ■SMIは以下の方法で発生する
 - ハードウェアから自動的に
 - 温度変化への対応など
 - ソフトウェアから OUT 0xb2, <Command_Number> によって
 - UEFI変数への書き込みなど

SMIハンドラーの登録

■2種類のAPI

- EFI_SMM_SW_DISPATCH2_PROTOCOL.Register()
 - Command Numberをキーとして登録。一般的
- EFI_MM_SYSTEM_TABLE.MmiHandlerRegister()
 - GUIDをキーとして登録
- ■SMIハンドラーは同一プロトタイプ

```
typedef
EFI_STATUS
(EFIAPI *EFI_MM_HANDLER_ENTRY_POINT)(
   IN EFI_HANDLE DispatchHandle,
   IN CONST VOID *Context OPTIONAL,
   IN OUT VOID *CommBuffer OPTIONAL,
   IN OUT UINTN *CommBufferSize OPTIONAL
);
```

https://github.com/tianocore/edk2/blob/0ecdcb6142037dd1cdd08660a2349960bcf0270a/MdePkg/Include/Protocol/SmmSwDispatch2.h#L117

https://github.com/tianocore/edk2/blob/0ecdcb6142037dd1cdd08660a2349960bcf0270a/MdePkg/Include/Pi/PiMmCis.h#L341

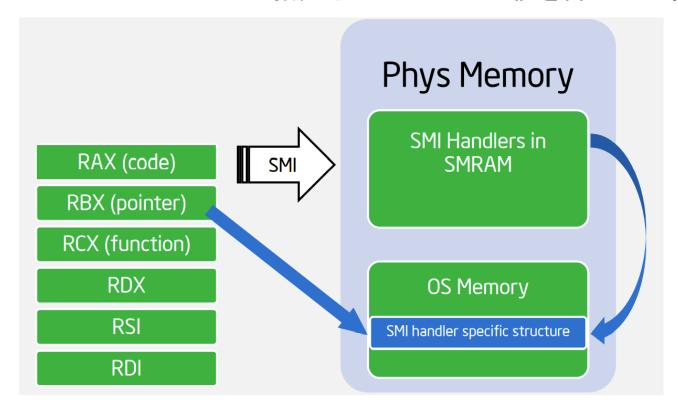
SMIの外部入力の扱い

- ■SMIハンドラーはSMRAM外からの入力が必要な場合がある
- ■SMRAM以外からの値は検証必須
- ■典型的には2種類
 - SMM Communication Bufferから
 - レジスターから
- ■それ以外にも
 - 実装依存の物理メモリーアドレスから(課題3)

https://software.intel.com/content/dam/develop/external/us/en/documents/a-tour-beyond-bioslaunching-stm-to-monitor-smm-in-efi-developer-kit-ii-819978.pdf

安全でない検証による脆弱性

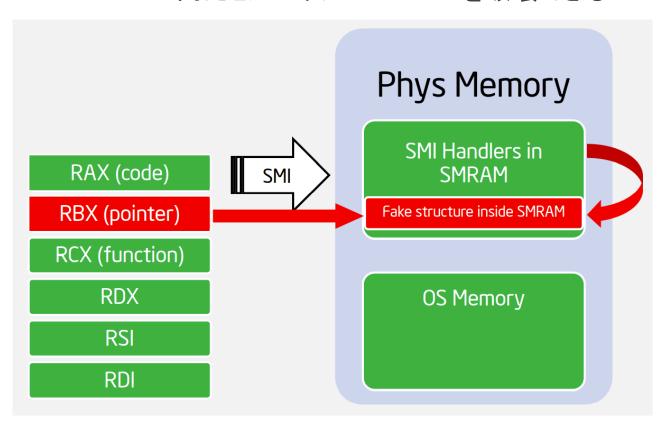
■SMIがレジスターRBXで指定されたアドレスに値を書き込む場合、



 $http://www.c7zero.info/stuff/ANewClassOfVulnInSMIH and lers_csw2015.pdf$

安全でない検証による脆弱性

■RBXがSMRAM内だとカーネルがSMRAMを破壊できる



 $http://www.c7zero.info/stuff/ANewClassOfVulnInSMIH and lers_csw2015.pdf$

必要な検証

- ■外部入力がSMRAM外を指定していることを確認する
 - AMIはAmiValidateMemoryBuffer()を実装
 - EDK2はSmmIsBufferOutsideSmmValid()を実装
- ■SMRAM内なら使わない

https://github.com/killvxk/LoginDemo/blob/859b3d842c61b130b6ec115373447650759aee9a/AmiModulePkg/Library/SmmAmiBufferValidationLib/SmmAmiBufferValidationLib.c#L21

 $https://github.com/tianocore/edk2/blob/0ecdcb6142037dd1cdd08660a2349960bcf0270a/MdePkg/Library/SmmMemLib/SmmMemLib.c.\\ \#L104$

課題3:CVE-2021-26943

- ■脆弱性のあるSMMモジュール: UsbRt, SdioSmm, NymeSmm
- *SMIの登録
 - ModuleEntryPoint() -> FUN_80000ec8()

■SMIハンドラー: swSmiHandler7()

課題3:CVE-2021-26943

- ■SMRAM外の物理メモリーアドレスを参照している
 - usedAsAddress = ((*(uint16_t)0x40e) * 0x10 + 0x104)
- ■検証はしているが成否にかかわらず値を使っている



```
if (addressFromOutsideSmram == NULL) {
          14
15
      else {
16
17
          *CommBuffer = NULL;
18
      efiStatus = IsOutsideSmram(addressFromOutsideSmram);
19
      efiStatus2 = 0:
20
      if (((efiStatus < 0) || (efiStatus2 = efiStatus, *addressFromOutsideSmram != '\'')) ||
21
22
         (0xb < addressFromOutsideSmram[1])) {</pre>
23
          efiStatus = efiStatus2;
          addressFromOutsideSmram[2] = '\a';
24
25
      else {
```

Exploitation - Basic

•攻撃手順

- 物理メモリーアドレス0x40eをゼロにする
- 物理メモリーアドレス0x104にSMRAMのアドレスXを書き込む
- SMI 0x42を実行する
- X + 2に '\a'(0x07)が書き込まれる

```
if (addressFromOutsideSmram == NULL) {
            addressFromOutsideSmram = *(<mark>uRam000000000000000 * 0x10 + 0x104);</mark>
14
15
        else {
16
17
            *CommBuffer = NULL;
18
        efiStatus = IsOutsideSmram(addressFromOutsideSmram);
19
        efiStatus2 = 0;
20
        if (((efiStatus < 0) || (efiStatus2 = efiStatus, *addressFromOutsideSmram != '\'')) ||</pre>
21
22
           (0xb < addressFromOutsideSmram[1])) {</pre>
23
            efiStatus = efiStatus2;
            addressFromOutsideSmram[2] = '\a';
24
25
        else {
```

Exploitation – In Practice

- ■どのSMRAMを書き換える?
 - SMRAM内の簡単に実行できる関数ポインター
 - gSmst->SmmLocateProtocol
 - カーネルモードからアドレスを取得可能
 - 他のSMI経由で実行可能
- ■カーネルモードで物理メモリーアドレス0x07070707にシェルコードを置く
 - 脆弱性を4度ついて、gSmst->SmmLocateProtocolを0x07070707にする
 - 他のSMI経由でgSmst->SmmLocateProtocol呼び出す
 - シェルコードがSMMで実行される
 - Ring 0 -> SMMローカル特権昇格

Lab: 脆弱性とエクスプロイトの確認

- swSmiHandler7()とエクスプロイトの実装を確認する https://github.com/tandasat/SmmExploit
- エクスプロイトがSMM特権昇格のデモとして行っていることはなにか?(ただのカーネルモードではできないことをしている)



脆弱性の影響

- ■ローカル特権昇格
 - 要件:初めにカーネルモードでコード実行が必要
 - が、SMMの脆弱性に対しては多くのセキュリティ機能が意味をなさない
 - VBS/HVCI、CFG、kASLR、NX/DEP
 - 影響:ハイパーバイザーの破壊(デモ)、SPIフラッシュの書き換え
- ■ASUS以外のBIOSにも同モジュールが使用されている
- ■50000以上のデバイスで前述脆弱なモジュールの存在を確認
 - 未修正バージョンを使用し続けている
 - 他OEMのBIOSで、脆弱性が検証、報告されていない(Known Zero Day)

本脆弱性のあるモジュールの検知

- ■SMM開発者
 - OEM間での脆弱性情報の共有
 - 本脆弱性は5年前に報告されたINTEL-SA-00057と同一。ASUSは情報を得られていなかった
- ■セキュリティ研究者
 - コードパターンの認識(efiXplorerなど)
 - BIOSアップデートなどから当該SMMモジュールの発見
- •組織のIT管理者
 - BIOSバージョンのインベントリーの作成
 - SMMモジュールのインベントリーの作成(ハッシュ、名前、GUID)
 - ・パッチ管理

https://github.com/Cr4sh/Aptiocalypsis https://github.com/binarly-io/efiXplorer

類似脆弱性のあるモジュールの検知

•SMM開発者

- セキュリティデザインレビュー
- プロセッサーのセキュリティ機能(SMM_Code_Chk_En、ページ保護など)を有効にする
- 新しいEDK2を使う
- ■セキュリティ研究者
 - スクレイピング + BISOアップデート展開 + コードパターンの認識?
 - UEFIエミューレーション?
 - ファジング?

■組織のIT管理者

- BIOSハッシュの定期的なチェック (Post-exploitation detection)?
- カーネルモジュールの実行管理

MSR_SMM_FEATURE_CONTROL	Package	Enhanced SMM Feature Control (SMM-RW)
		Reports SMM capability Enhancement. Accessible only while in SMM.
0		Lock (SMM-RWO)
		When set to '1' locks this register from further changes.
1		Reserved
2		SMM_Code_Chk_En (SMM-RW)
		This control bit is available only if MSR_SMM_MCA_CAP[58] == 1. When set to '0' (default) none of the logical processors are prevented from executing SMM code outside the ranges defined by the SMRR.
		When set to '1' any logical processor in the package that attempts to execute SMM code not within the ranges defined by the SMRR will assert an unrecoverable MCE.

参考:SMM開発と仮想マシン

■DXEドライバー同様SMMモジュールも開発可能

Press ESC in 1 seconds to skip startup.nsh or any other key to continue.

- QEMUはSMMをエミュレートできる(ただし不完全)
- 実機ではSPIフラッシュプログラマーでBIOSをに書き込む必要がある
- VMwareはSMMを持たない

Shell>_



https://github.com/tandasat/HelloSmm

参考:SMMデバッギング

- ■実機でのSMMデバッグはハードウェアデバッガーが必要
- ■IntelシステムはUSBを通してDirect Connect Interface (DCI)でデバッグ可



Intel® Closed Chassis Adapter¹



- ■アンチデバッグに検知されにくいカーネルデバッグ技術としても使用可能
 - Kernel Patch Protection (Windows)の解析等

https://standa-note.blogspot.com/2021/03/debugging-system-with-dci-and-windbg.html

参考:SMRAMフォレンジック

- ■ハードウェアデバッガーを接続した場合、SMRAMを取得可能
- ■SMRAM内の多くの構造体は4bytesのmagic valueから始まる
 - 'SMST', 'smmc', 'smih' など
 - 構造体のレイアウトはEDK2から取得可能
- ■SMRAMをパースしてSMIハンドラーなどを特定可能
 - smram_parse.py
 - Authored by Dmytro Oleksiuk @d_olex
 - Updated by myself for Python3

https://github.com/tandasat/smram_parse https://github.com/Cr4sh/smram_parse

参考:

SMMエントリーポイントの実装

- <u>SmiEntryPoint (SmiEntry.nasm)</u>
 - SmiRendezvous (MpService.c)
 - BSPHandler (MpService.c)
 - <u>SmmEntryPoint (PiSmmCore.c)</u>
 - SmiManage (Smi.c)
 - SmiHandler->Handler()
- ■SMMエントリーポイントは16bit real-modeで始まる
 - すぐに64bitに移行する
 - SmiRendezvousは全プロセッサーにSMIを発行し、SMIが処理されている間、SMM内にロックする(race conditionの防止)

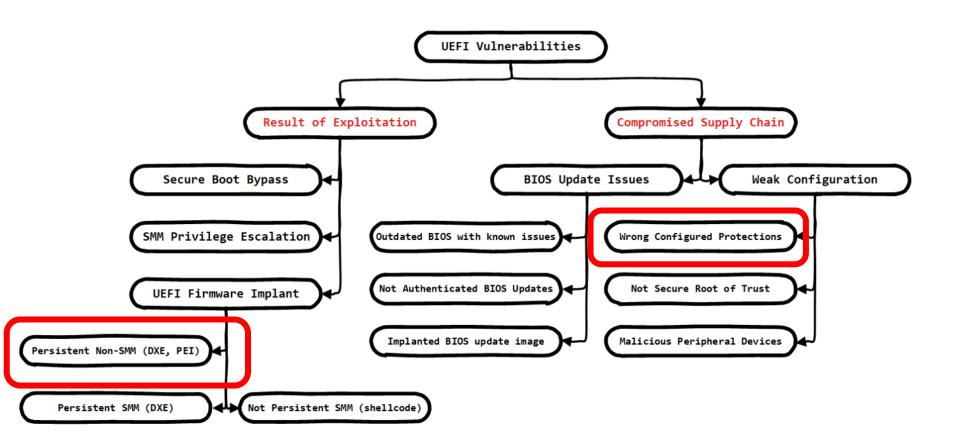
参考:ほかの最近のSMM脆弱性

- SMM callout
 - https://github.com/binarly-io/Vulnerability-REsearch/blob/main/Lenovo/BRLY-2021-001.md
- SMM callout via EFI_BOOT_SERVICES
 - https://www.synacktiv.com/en/publications/through-the-smm-class-and-avulnerability-found-there.html
- Write-what-where through SMM
 - https://dannyodler.medium.com/attacking-the-golden-ring-on-amd-mini-pc-b7bfb217b437

UEFIに感染する マルウェアと 脆弱性

(INTEL SPECIFIC)

分類

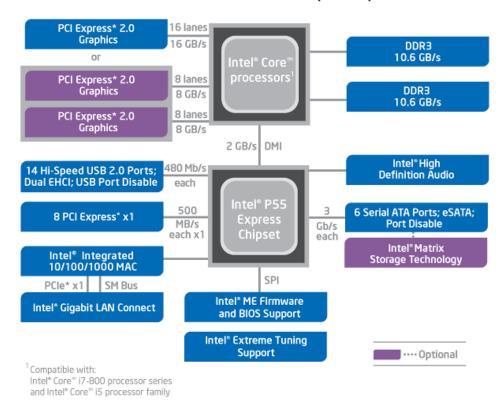


SPIフラッシュの保護

- ■BIOSはアップデート可能でなければならない
- ■BIOSはSMMからアップデートされなければならない
 - BIOSはSMMを含み、SMMはOSより権限が高い
 - CPOSから書き換え可能の場合、OS -> SMM特権昇格
- ■ハードウェアが書き込み保護に関するレジスターを提供
 - /テレジスターの設定はBIOSが行う
 - プラBIOSはOEM(とBIOSベンダー)が実装するソフトウェア
 - ▶ ♪ 設定ミスがありうる

Intelチップセットアーキテクチャ

- ■上: CPU 最新は11th gen
- ■下: Platform Controller Hub (PCH) 最新は500 Series



ソフトウェアによる SPIフラッシュへのアクセス

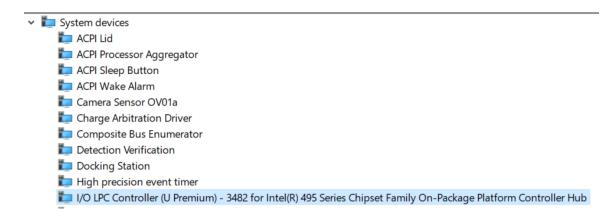
- ■ハードウェアシーケンシング (Hardware sequencing)
- ■特定のレジスターに書き込むと一度に64byteまでIOできる
 - おおまかな手順
 - 1. Hardware Sequencing Flash Status and Control (BIOS_HSFSTS_CTL) レジスターの
 - 1. Flash Descriptor Valid (FDV)ビットが1であることを確認する
 - 2. Flash Cycle (FCYCLE)ビットに0(read)を書く(writeの場合は1)
 - 3. Flash Data Byte Count (FDBC)ビットにIOしたいサイズを書く
 - 2. Flash Address (BIOS_FADDR) レジスターに読み書きのオフセットを書く
 - 3. Hardware Sequencing Flash Status and Control (BIOS_HSFSTS_CTL) レジスターの
 - 1. Flash Cycle Go (FGO)ビットに1を書く
 - 2. ハードウェアが処理を始める
 - 3. SPI Cycle In Progress (H_SCIP)ビットが0になるまで待つ
 - 4. Flash Data 0 .. 15 (BIOS_FDATA0 .. 15)レジスターにSPIフラッシュから読み込まれた データが反映されるので読む 7.2.2 Hardware Sequencing Flash Status and Control
 - 4. 上記2-3を繰り返す

- (BIOS_HSFSTS_CTL)—Offset 4h

 7.2.3 Flash Address (BIOS_FADDR)—Offset 8h
- 7.2.5 Flash Data 0 (BIOS_FDATA0)—Offset 10h

レジスター位置の特定

■ デバイス情報からPCHのバージョンを特定(例 495 On-Package)



- 仕様書の入手
- 仕様書にある通り、B0:D31:F5がSPIフラッシュコントローラーであることを確認



SPI Interface (D31:F5)



Intel(R) SPI (flash) Controller - 34A4

7 SPI Interface (D31:F5)

Device type:

System devices

Manufacturer:

INTEL

Location:

PCI bus 0, device 31, function 5

https://www.intel.ca/content/www/ca/en/products/docs/chipsets/495-series-chipset-on-package-pch-datasheet-vol-2.html

レジスター位置の特定

■ 当該レジスターはSPI BAROからのオフセットなので、SPI BAROを確認

7.2 SPI Memory Mapped Registers Summary

The SPI memory mapped registers are accessed based upon offsets from SPI_BAR0 (in PCI config SPI_BAR0 register).

Table 7-2. Summary of SPI Memory Mapped Registers

Offset Start	Offset End	Register Name (ID)—Offset
0h	3h	BIOS Flash Primary Region (BIOS_BFPREG)—Offset 0h
4h	7h	Hardware Sequencing Flash Status and Control (BIOS_HSFSTS_CTL)— Offset 4h
8h	Bh	Flash Address (BIOS_FADDR)—Offset 8h
Ch	Fh	Discrete Lock Bits (BIOS_DLOCK)—Offset Ch
10h	13h	Flash Data 0 (BIOS_FDATA0)—Offset 10h

■ SPI_BAR0はPCI Config Spaceのオフセット0x10

7.1 SPI Configuration Registers Summary

Table 7-1. Summary of SPI Configuration Registers

Offset Start	Offset End	Register Name (ID)—Offset
0h	3h	Device ID and Vendor ID (BIOS_SPI_DID_VID)—Offset 0h
4h	7h	Status and Command (BIOS_SPI_STS_CMD)—Offset 4h
8h	Bh	Revision ID and Class Code (BIOS_SPI_CC_RID)—Offset 8h
Ch	Fh	BIST, Header Type, Latency Timer, Cache Line Size (BIOS_SPI_BIST_HTYPE_LT_CLS)—Offset Ch
10h	13h	SPI BARO MMIO (BIOS_SPI_BARO)—Offset 10h

レジスター位置の特定

■ PCI Config SpaceはRWEverythingなどのツールで確認可能



■ 物理メモリーアドレス0xfe01000(SPI BARO) + 仕様書のオフセットがレジスター



http://rweverything.com/download/

書き込み保護機能の一部

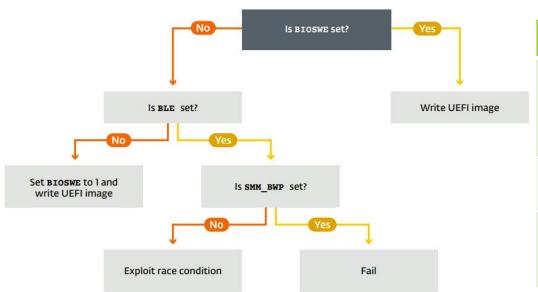
■ SPIインターフェースのBIOS Controlレジスターが書き込み保護の一部機能を管理

古い名	新しい名前	意味
BIOS Write Enable (BIOSWE)	Write Protect Disable (WPD)	1: BIOSへの書き込みを禁止する もし1 -> 0に書き換えられかつLEビット が1ならばSMIが発生
BIOS Lock Enable (BLE)	Lock Enable (LE)	1: EISSが変更不可。WPDが1 -> 0に書き換えられたときSMIが発生
SMM BIOS Write Protect Disable (SMM_BWP)	Enable InSMM.STS (EISS)	1: BIOSへの書き込みをすべてのプロセッサーがSMMでない限り禁止する

7.1.8 BIOS Control (BIOS_SPI_BC)—Offset DCh

Lojaxによるチェック

- LojaxはRWEverything(署名済みドライバー)を用いてレジスターをチェック
 - 可能ならSPIフラッシュへの書き込みを行いBIOSに感染する



古い名	意味
BIOSWE	1: BIOSへの書き込みを禁止する
	もし1 -> 0に書き換えられかつLE ビットが1ならばSMIが発生
BLE	1: EISSが変更不可。WPDが1 -> 0 に書き換えられたときSMIが発生
SMM_BWP	1: BIOSへの書き込みをすべての プロセッサーがSMMでない限り 禁止する

Figure 12 // Decision tree of the writing process

https://www.welivesecurity.com/wp-content/uploads/2018/09/ESET-LoJax.pdf

Speed Racer

- ■SMM_BWP/EISSが0または存在しない場合の脆弱性
- •攻撃シナリオ
 - 1. BIOSWE/WPDとBLE/LEが両方1とする
 - 2. CPU1がBIOSWE/WPDに0を書き込む
 - 3. CPU1でSMIが発生する

 - 5. CPU1がBIOSWE/WPDに1を書き戻す
- ■SMM_BWP/EISSが1の場合4が失敗する

Lab: ReWriter_binaryの レビュー

- ■前述のチェックの実装を確認する
- ■実装されたロジックはPCH9までしか動作しない (PCH-100以降は機能しない)。なぜか?
 - Hint: PCH9まではLPC Interface(B0:D31:F0)のRoot Complex Base Address、以降はSPI Interface(B0:D31:F5) が必要。仕様書を比較すること



脆弱なデバイスの検知

- ■PCH5より古いデバイス(2008年頃)
 - SMM_BWP/EISSがない
- ■レジスターの値を確認するソフトウェアを実行する
 - CHIPSEC
 - CrowdStrike Falcon

https://www.crowdstrike.com/blog/crowdstrike-first-to-deliver-bios-visibility/https://github.com/chipsec/chipsec

同脆弱性をつく 未知のマルウェアの検知

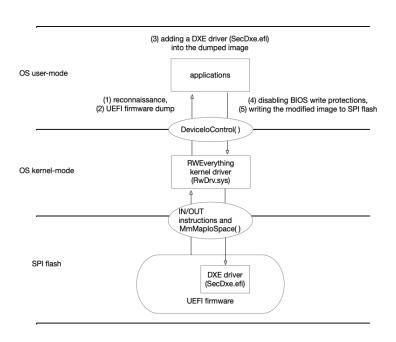
- ■インストール、実行時
 - カーネルモードドライバーのインストールの検知
 - カーネルモードドライバーとのIOCTLの検知
 - ハイパーバイザー?

■感染後

- Secure Boot (実行の防止)
- BIOSイメージ内のSecDxeの検出?
 - GUID: 832d9b4d-d8d5-425f-bd52-5c5afb2c85dc
 - SHA256: 7ea33696c91761e95697549e0b0f84db2cf4033216cd16c3264b10daa31f598c
- BIOSイメージのハッシュ値の変化?
- autochk.exe等Windowsコンポーネントの検知

参考:本と記事

- Detecting UEFI Bootkits in the Wild
 - https://blogs.vmware.com/security/2021/06/detecting-uefi-bootkits-in-thewild-part-1.html
- Rootkits and Bootkits
 - https://nostarch.com/rootkits



最後に

次のステップ?

- **■**アウトプット
 - UEFIマルウェア機能の再実装
 - SMMゼロデイの発見
 - エミュレーターやファザーの研究と実装
- ■インプット
 - ブログや本を読む
 - 全体像の理解に有用
 - 有名なエンジニアをTwitterでフォローする
 - カンファレンスの講演を見る

Enjoy!



リンク等

- UEFI vulnerabilities classification focused on BIOS implant delivery
- Summary of Attacks Against BIOS and Secure Boot
- Safeguarding UEFI Ecosystem: Firmware Supply Chain is Hard(coded)
- •UEFI Firmware Rootkits: Myths and Reality
- MODERN SECURE BOOT ATTACKS: BYPASSING HARDWARE ROOT OF TRUST FROM SOFTWARE
- BETRAYING THE BIOS: WHERE THE GUARDIANS OF THE BIOS ARE FAILING